

試験実施方法（花き）

1. 試験条件

1) ほ場条件

- ・風当たりが弱く、排水良好な、その地域の代表的なほ場を選ぶ。
- ・特殊な土壌条件の場所は避ける。

2) 供試品種

- ・栽培試験では、その地域の代表的な品種を複数供試することが望ましい。
- ・品種試験では、標準品種（特性が安定した代表的品種で基準となる品種）、対照品種（検定品種・系統を普及するうえで目標となる品種）、参考品種（特性などの評価に参考となる品種）を準備する。
- ・標準品種は、年次や場所などが異なっても共通させる。
- ・対照品種は、地域や作型によって異なることもある。

3) 供試作型（作期）

- ・その地域の代表的な作型・作期での試験が望ましい。
- ・品種試験では、目的とする品種の特性が発揮できる作型・作期で実施する。

4) 試験規模

- ・反復数は2～3程度とする。
- ・1区の個体数を減らしても、反復数を増やすことで試験の信頼度は高まる。
- ・1区個体数<反復数<試験箇所数<年数の順で試験誤差は小さい。
- ・個体数を多く供試できる作物は約50個体、3反復、2カ所、2年以上の試験が望ましい。
- ・花木など個体数を多くとれない作物は5個体程度でも良いが、極力反復数、箇所数、年数を多くとるように工夫する。

5) 栽培法

- ・その作物の標準栽培法による。
- ・特殊な栽培法をとった場合は、その内容を明記する。

・種苗の入手

自家育苗する場合はセルトレイ育苗、ペーパーポット育苗などその内容を明記する。購入苗の場合は、苗の形態、入手先などを明記する。

・栽植様式・栽植密度

標準または慣行の栽植様式、栽植密度とする。

・被覆資材などの利用

作型に対応した資材を利用した時は、その内容と利用時期を明記する。

・肥料・土壌改良資材の施用、灌水など

標準または慣行の施用法、施用量とする。

・病虫害防除・雑草防除

北海道農作物病虫害・雑草防除ガイドに従って防除を実施する。やむを得ず防除ガイドの記載以外の防除を行った場合にはその旨を記述する。

2. 試験経過の記録

1) 気象経過

- ・アメダスデータ等を利用して、気温、日照時間、降水量などについて、平年との比較を行う。
また、特記事項があれば記録する。
- ・施設を利用する場合は、施設内の気温などを記録することが望ましい。

2) 生育経過

- ・必要なデータを取りながら、特記事項を記録する。

3. 生育調査、採花調査等におけるサンプリング

1) 生育調査

- ・草丈などの生育調査は、試験区内の中庸な生育をしている所で行う。
- ・個体の調査では、障害個体を除くとともに、欠株や生育不良株の両隣からのサンプリングは避ける。

2) 採花調査

- ・試験区全体の採花調査が望ましい。
- ・やむを得ない場合は、一定面積からのサンプリングをするが、通路や他の試験区に隣接した個体などを除外する。

4. 調査要領

- ・ランク A : 必ず実施する
- B : 必要に応じて実施する

成績の取りまとめ様式

1. 試験目的

本試験で明らかにしたい内容を記載する。

2. 試験方法

1) 実施場所

市町村名、機関名、現地では農家名など。

2) ほ場条件

土壌タイプ、土質、畑地・転換畑の種別、前作物など。

3) 作型

露地・雨よけ、無加温・加温の区別、定植期、採花期など。

表記はフラワーガイドに準ずる。

4) 供試品種

品種のタイプ、入手先など。品種試験では標準品種、対照品種、参考品種を明記する。

5) 処理区別

処理内容、処理方法など。

6) 試験規模

1区面積、株数、反復数など。

3. 耕種概要

1) 育苗

播種月日、セル穴数、播種粒数、育苗培土など。

2) 定植

定植月日、苗の大きさなど。

3) 栽培管理

摘心、整枝法、摘蕾、施設の設定温度など。

4) 栽植様式、栽植密度

ベッド幅、通路幅、条間、株間、条数、aあたり栽植株数など。

5) 施肥

施肥時期、肥料名、aあたり要素量、有機資材、土壌改良資材、追肥など。

6) その他

灌水管理、保温管理、防除回数、植物調節剤処理など。

4. 試験経過の概要

1) 気象経過

気温、日照時間、降水量の平年との比較、特記すべき事項など。

2) 生育経過

生育の概要、特記すべき病害虫や生理障害など。